

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区亀戸3-46-15TCPビル2階
施設名	I. R. U株式会社 なないろ保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

「自然」

〈テーマの設定理由〉

普段の生活の中で、戸外遊び中に自然物に触れたり季節の様子を感じたりすることを楽しんでいる姿から、自然を5感で感じたり、自然物を利用して制作したりする機会を多く作り、子ども達に物の大きさや色、感触、創造力、生命の尊重を育む機会にしたいためテーマを設定した。

2 活動スケジュール

- ・さまざまな自然活動を行い、興味関心を広げる。(4月から8月)
例：園の戸外スペースや戸外に出掛け、季節の草花、虫などに触れたり観察したり、疑問を持ったりする。葉や花びら、木の実、枝、生き物などを使って遊んだり図鑑で調べたり制作をしたりする。特に戸外スペースを整備することにより観察や探究ができる環境を作る。虫を飼育し生態や飼育環境などについて探求する。光、風、温度などが季節や気温などで変化することへの不思議さを感じる。普段口にしていない食べ物が何からできているかに興味を持ち、食育活動をする。など
- ・子どもの興味関心に合わせた各クラスの絞り込んだテーマを設定する。設定してテーマで活動を深め、探求していく。(9月から12月)
【0歳児：光、1歳児：虫 2, 3歳児：食～何からできているの?～ 4, 5歳児：生き物】
- ・さらに探求を深め、一年のまとめ、次年度への引継ぎをする。(1月から3月)
- ・週一回のミーティングにて保育者間で活動報告や今後の展開などについて話し合う。
- ・毎日ドキュメンテーションにて保護者に活動を報告する。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

【素材・道具】葉・花・枝・虫・砂などの自然物・図鑑・本・虫眼鏡・飼育かご・飼育セット・食育用食材・ボールやうどん切り包丁などの食育道具・自然物を入れる棚や入れ物・絵の具・画用紙・段ボール・カラーセロファン

【環境】戸外スペースを改装し、自然物の観察や探求を行いやすい環境にした。子ども達が自由に探究を行えるように教材や素材を用意した。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【0歳児：光】 戸外や戸外スペースで自分や他児の影に興味を持つ様子から虫眼鏡で光を集めたり、カラーセロファンで色のついた光を覗いたり触れたりし光への関心興味を深めた。

【1歳児：虫】 幼児クラスで飼っていたアゲハ蝶の幼虫や成虫に興味を示したり、絵本の「はらぺこあおむし」が大好きなことから、青虫を育てたい思いが強まり、青虫の餌となる葉を人参やキャベツから育てたり、青虫の制作をしたり活動を広げ探求を深めた。

【2, 3歳児：食～何からできているの?～】 普段食べている食事が元は違う食材からできていることを知りどのようにしてできるのかに興味を持ったことからお店への見学、作り方調べ、買い物、調理を行い自分たちで作り食する喜びも味わった。(パン、うどん、ふりかけなど)

【4, 5歳児：生き物】 カブトムシなどの昆虫を飼ったことから飼育環境や体の作りなどに興味を持ち、快適な飼育環境を調べ構成したり、体の仕組みを観察したことから人体や他生物の体の仕組みや花の作りに興味を広がり、自分達で観察し調べたり聞きに行ったりする活動に発展した。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

【0歳児】 影を触っても手に取れないことに首をかしげていた。保育者が日を隠すと影がなくなることに驚いた表情を浮かべていた。その様子からカラーセロファンや虫眼鏡を使い光に色を付けたり強めたりすると興味を持って自分で手に取り光を作ったり光を追いかけたり他児と光を重ねたり隠したりする様子が見られた。嬉しそうに保育者に教えたり驚いたりしながらどうしたら光ができるのかを体験を通して会得していく様子も見られた。

【1歳児】 幼児クラスのアゲハ蝶の幼虫や成虫に興味を示し、飛んでいった後も「いないね」と気にかけていた様子から、また青虫に会うために人参などの葉を育てた。葉が伸びてきたことに気づき「大きくなったね」と喜んでいた。青虫の制作に発展すると絵の具の感触や色合いにも興味を示していた。

【2, 3歳児】 普段食べているものが何からできているのかを知らなかったり考えたこともない子が多く、保育者がどうしたら分かるかと問うと「作っている人に聞く。見に行きたい」という発言につながった。うどん屋に見学に行った際には「大きいのを伸ばしてる」「まだ細くないね」など会話が聞かれ作り方やトッピングなどを真剣な表情で見ている。実際に作ってみると「さらさらの粉がもちもちのうどんになった」と変化に驚き、自分たちで作ったことに喜びを感じていた。他の料理などにも興味を広がり、ふりかけの味を自分たちで考え作る活動などに繋がった。

【4, 5歳児】 カブトムシやカマキリを飼育することになると飼育環境が違うことに気付く。「カブトムシは土が必要だけどカマキリはいるのかな」調べたり材料を集めに行ったりし「もっと太い枝の方がいいんじゃない」など他児と相談したり意見をぶつけたりしながら飼育環境を作っていた。観察する中で「足の数が同じだ」「オスとメスは角の他にどこか違うのかな」と気づきや疑問が生まれ、調べていく中で「人は？」と疑問が深まったことから保育者が看護師を招き、人の体の違いやプライベートゾーンについてと探求を広げた。「花も生き物だ。足の代わりは？作りは？」と草花にも興味を広がり、観察や花への聞き込みにつながった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子ども達の気づきやなんでだろうと感じる心は無限大である。その気づきや疑問の言葉や表情を保育者は逃さずに向き合い、発展に導く声掛けや提示などを行うことで子ども達のわくわくは更に広がり、探求が深まっていくことを実感した。また、保育者も子どもと同じ「いち探求者」であり、共に探求を心から楽しみ行うことが何より子ども達のわくわくを広げ、探求を深めることに繋がるということを感じた。写真や実物を掲示したり、活動の様子を写真を使って掲示するなど視覚的に見せることで子どもの関心も継続し、他クラスや保育者間での共有にも繋がった。